

つながる、広がる、

農業農村の力。

令和7年度  
男女共同参画  
推進大会  
in くまもと

阿蘇の田園風景



通潤橋



記録誌

～ 私たち、ひとりひとりが輝く水土里ネットの未来をつくろう～



# — CONTENTS —

<b>主催者挨拶</b> .....	2
くまもと水土里ネット女性の会 会長	森下ひとみ
全国水土里ネット女性の会 会長	西 彩
<b>来賓挨拶</b> .....	2
九州農政局 次長	小野寺慎司
熊本県農林水産部 部長	中島 豪
熊本県土地改良事業団体連合会 会長 熊本県町村会 会長 芦北町長	竹崎 一成
都道府県土地改良事業団体連合会 会長会議顧問 参議院議員	進藤金日子 (代読 政策秘書 豊 照久)
<b>基調講演</b> .....	4
みやま市農業委員会 会長 山川地区土地改良区 理事	徳永 順子
<b>パネルディスカッション</b> .....	6
◆コーディネーター 全国土地改良事業団体連合会 土地改良研究所長	親泊 安次
◆アドバイザー みやま市農業委員会 会長 山川地区土地改良区 理事	徳永 順子
◆パネラー 長崎県土地改良事業団体連合会 理事	松本 彩子
熊本県土地改良事業団体連合会 理事	酒瀬川美鈴
宇城市土地改良区	田尻 千恵
熊本県農地整備課 課長	大森 直樹
<b>大会決議</b> .....	11
<b>記念撮影</b> .....	12
<b>大会交流会</b> .....	13
<b>大会参加者アンケートまとめ</b> .....	14
<b>現地研修行程</b> .....	15
<b>大会を終えて</b> .....	16

## 主催者挨拶

くまもと水土里ネット女性の会 会長 森下ひとみ

くまもと水土里ネット女性の会を代表しましてご挨拶申し上げます。この度は、全国から熊本にお越しいただき、誠にありがとうございます。

この熊本は、阿蘇の雄大な自然、清らかな水、温暖な気候に恵まれ、米、野菜、畜産、また有明海の恵みを生かした水産、多様な農業が営まれています。一方では、平成28年の熊本地震、令和2年、5年の豪雨災害と、幾度となく試練を経験してきました。現在も、今年8月に発生した豪雨災害からの復興に取り組んでいるところです。度々起こる災害、その度に全国からの支援や地域に向けた助け合いの力が復興の原動力となっております。私たちくまもと水土里ネット女性の会では、女は度胸と愛嬌を合言葉に、様々な活動を通じて会員のネットワーク、キャリアアップに取り組んでおります。そして、災害が発生した時は相互に連絡を取り取り合うなど、協力体制を築きつつあります。男女が共に力を合わせて、誰もが安心して働き、生活できる環境をつくる、それこそが今後の農業、農村を守ることに繋がると信じております。今大会が皆様にとって有意義な時間となりますよう、そして熊本の風土、人の温もりを感じていただけたら幸いです。最後に、皆さんに会えて「たいぎょうれしか」。主催者挨拶とさせていただきます。本日はよろしく申し上げます。



## 主催者挨拶

全国水土里ネット女性の会 会長 西 彩

ようこそ熊本にお越しくださいました。まず初めに、令和7年の豪雨災害により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。被災地の1日も早い復興と、皆様の安全と安心が守られることを願っております。

本日は、全国各地から農業、農村に携わる皆様が一堂に会し、男女共同参画の推進について共に考える機会が得られましたことを嬉しく思っております。また、開催にあたりましてご協力いただきました関係者の皆様、ご参加いただいた皆様に心より感謝申し上げます。私たち女性の会は、それぞれの地域の現場で培った経験を生かし、農業、農村の未来を支えるべく、研修会等を開催するなど活動を続けてまいりました。今、持続可能な社会の実現に向けて、性別を越えた協働が求められています。女性が活躍することは単なる支援ではなく、地域の力を最大限に引き出すことであると考えております。そして、私たちが活躍できる環境を作るということは、その地域に暮らす全ての人々にとってより良い環境になると考えております。本日の大会が皆様の意識と行動を変えるきっかけとなり、全国各地で多くの新たな風を吹かせることを期待しております。ここにたくさんの仲間がいます。私たちのネットワークを単なる交流だけではなく、地域の課題解決や新しい価値の創造につながっていきますよう、共に未来を作ってまいりましょう。



## 来賓挨拶

九州農政局 次長 小野寺慎司

本日、「つながる、広がる、農業農村の力。男女共同参画推進大会 in くまもと」が盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。日頃より、農業・農村の振興と発展にご尽力いただいている皆様に厚く御礼申し上げます。

さて、昨今の農政を取り巻く状況として、昨年改正された食料・農業・農村基本法に基づく基本計画が本年4月に閣議決定されました。この計画では、持続可能な農業構造の実現に向け、2030年までに土地改良区における女性理事の割合を10%にするというKPIが明確に掲げられています。また、本年9月に決定された土地改良長期計画では、農村の人口減少・高齢化に対応し地域社会を維持するため、農村振興の必要性が示されました。さらに、土地改良区などの活動組織が持続可能な運営を確立できるよう、女性や若者など多様な人材の参画を促すことが重要な施策として盛り込まれています。本大会は、農業農村整備事業における男女共同参画の重要性を共有し、誰もが活躍できる持続可能な農業・農村の実現を目指すものです。今後の地域づくりにおいて、女性目線の意見の重要性は不可欠です。本日お集まりの皆様のお力に大いに期待しております。本大会を契機に、女性と男性がともに力を合わせ、日本の農業と地域社会の活性化がさらに進むことを心より祈念いたします。



## 来賓挨拶

熊本県農林水産部 部長 中島 豪

「つながる、広がる、農業農村の力。男女共同参画推進大会 in くまもと」の盛大なる開催を心よりお慶び申し上げます。全国から熊本においでいただき、誠にありがとうございます。熊本県は、豊かな自然に恵まれ、令和5年度農業産出額が全国第5位となるなど、全国有数の食料生産地として発展し、我が国の食料安全保障の一翼を担っております。一方で、熊本地震や令和2年7月豪雨など、幾度となく自然災害に見舞われましたが、関係者のご尽力により復旧が進み、現在「食のみやこ熊本県」の創造に向け、稼げる農林畜水産業の取り組みを強力に進めております。このような中、地域の持続的な発展を支える上で、男女共同参画の推進は極めて重要です。農業・農村地域において、男女が共に能力を発揮し、対等に参画できる環境づくりは、地域全体の発展に不可欠です。特に土地改良区などにおける女性の活躍や意思決定への参画は、地域に根ざした事業をより豊かに展開させると期待されます。今大会を通じ、皆様が取り組みを共有し、男女共同参画の意義と実践方法への理解を深め、今後の多様性を尊重した組織づくりに生かしていただくことを期待しております。結びに、ご参加の皆様の今後のさらなるご活躍と、男女共同参画の推進に心より祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。



## 来賓挨拶

熊本県土地改良事業団体連合会 会長 熊本県町村会 会長  
芦北町長 竹崎 一成

先日の大リーグでの侍たちの活躍に感動冷めやらぬ中、本大会が盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。主催者である全国並びに熊本の水土里ネット女性の会の皆様に深く敬意を表しますとともに、全国からお集まりの皆様を心より歓迎いたします。

現在、農業を取り巻く環境はかつてない厳しさの中にあります。しかし、私は農業こそ「命を支える根幹」であり、これを疎かにする国に未来はないと確信しています。世間では「地方消滅」などが叫ばれますが、食料自給率が極端に低い都市部こそ、地方が衰退し食料供給が止まれば真っ先に危機に陥ります。だからこそ、都市と地方が互いの存在を認め合い、食と農の教育を通じて連携を深めていくことが重要です。農業基盤整備は、国の存立に関わる国防にも通じる使命です。この使命を果たすためには、世代や立場を超えた団結が不可欠であり、皆が心をつなぐれば、「1+1」は「3」にも「4」にもなる相乗効果が生まれます。その原動力こそが男女共同参画の推進です。女性ならではの感性と視点を生かし、現場で誇りを持って活躍できる環境づくりが、農業の未来を切り拓く確かな一歩となります。初の女性総理の誕生により、まさに女性が輝く時代が到来しました。連合会も皆様の活躍を力強く後押しし、常に共に歩んでまいりましょう。



## 来賓挨拶

都道府県土地改良事業団体連合会 会長会議顧問  
参議院議員 進藤金日子 (代読 政策秘書 豊 照久)

「つながる、広がる、農業農村の力。男女共同参画推進大会 in くまもと」のご盛會を心よりお慶び申し上げます。まず、西会長、森下会長はじめ本大会の開催にご尽力いただきました関係者に敬意を表し、感謝申し上げます。また、全国各地で土地改良区の運営等を通じ、農業農村の振興に貢献されている皆様に深く敬意を表します。2年前には参加させて頂きましたが、本年は国会業務のため出席がかなわず、心よりお詫び申し上げます。

さて、土地改良分野はかつて「男社会」と呼ばれましたが、第5次男女共同参画基本計画や土地改良長期計画により、女性理事割合を10%とする目標が設定されました。本年3月末時点で2.6%となっていますが、平成28年の0.6%から着実に前進しており、目標に向けた皆様のご奮闘のおかげと感謝いたします。また本年6月、前会長の根本由紀子様が男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰を受賞されました。これは全国の女性の会の活動が評価されたものであり心よりお祝い申し上げます。

現在、国は農業構造転換集中対策を進めていますが、この推進には女性の発想力や視点、ユニバーサルな観点からの実行が必要です。本大会を契機に連携を深め、団結して取り組むことで、農業・農村が発展することを確信しております。私も強い農林水産業と美しく活力ある農山漁村を作り上げるため邁進してまいります。



# 基調講演

## 「やる気スイッチは押しつ押しされつ」 ～共に考え、共に動いた分、地域は変わっていく～

みやま市農業委員会 会長 山川地区土地改良区 理事 徳永 順子

### 1 はじめに

#### ～私の“やる気スイッチ”はどこから押されたか～



皆さんこんにちは。今日はお招きいただき、本当にありがとうございます。

「基調講演をお願いします」と言われて、正直、内容がよく飲み込めないまま来てしまって、会場に入った瞬間「なんてこったい！」と思ったんですけど（笑）、私がこれまで

地域でやってきたことを、そのままお話しさせていただきます。

私が農業委員になったのは、もう23年前になります。義父が亡くなり、夫は会社員で忙しくて、地域の農業関係の会合は私が出るようになりました。会議で疑問に思ったことをそのまま質問していたら、それがJAの方や農業委員会会長の目にとまったらしく、お誘いをいただきました。

当時は義母と一緒に農作業をしていましたので、「月に1回の総会に出るくらいならよかろう」と、まあまあ厳しい義母から許可が出たのを覚えています。でも私の性格上、「受けた役は肩書きだけで終わらせてはいけない」という気持ちが強くて、義母が6年前に天国に行ってから、もう全力で農業委員会の活動にのめり込むようになりました。

その中で、女性の委員としていろんな委員会に参加すると、見えてくるんです、課題が。

「このままじゃ地域は変わらん。誰かが動かんと」と、だんだん自分の中のスイッチが入り始めました。

### 2 山川組という仲間たち

#### ～“気心の知れたチーム”が動き始める～

私が活動している山川地区は、農業委員さんが長く続けておられて、皆さん前向きで、気心の知れた方ばかり。姓が同じ方が多いので、下の名前と呼び合うほど仲が良く、「山川組」というチーム名までついています。

農地パトロールをすると、山間地には耕作放棄地や遊休農地がたくさんあります。ただ「適正に管理してくださ

い」という文書を送っただけでは何も変わらない。

「だったら、どうすればいいのかを自分たちで考えよう」と、毎月の勉強会や話し合いがどんどん活発になりました。「この景色を、未来の子どもたちにどう残すか」そんな思いが、私たちをどんどん突き動かしていったんです。

### 3 農地中間管理機構との出会い

#### ～“農家負担ゼロ”の基盤整備を知る～

2017年頃、農地中間管理機構の制度を知りました。山間地でも、農家負担ゼロで基盤整備ができる。これを聞いたとき、「これしかない！」と思いました。

すぐに市役所や農業委員会、JAと連携して、地元説明会を開きました。

地権者さんはもちろん、周りの住民の皆さんにも通知を出したら、公民館がいっぱいになるほど来てくださって、関心の高さを肌で感じました。私は皆さんにこうお伝えしました。

「これは耕作放棄地を解消するだけの話じゃありません。未来の子どもや孫たちが耕しやすい農地を残すための挑戦です」

若手農家さんからも期待の声が上がり、「じゃあやりましょう！」と動き始めました。

この事業を進めるために、私は農業委員会長に加えて土地改良区の理事にもなりました。

「動くなら、この立場のほうが動きやすかね」と思っていたように、周囲も違和感なく応援してくれました。

### 4 遊休農地解消の“汗と涙の物語”

事業を進める前に、まずは遊休農地を自分たちで片付けないといけません。これが、まあ本当に大変でした。

#### ●捨てられたゴミとの闘い

荒れた農地って、人の心も荒れさせるんですよ。草が生い茂ると、ゴミを捨てても隠れるから罪悪感が薄れるんです。実際に行ってみたら、タイヤ、テレビ、ソファー、瓶、缶、壊れたハウス資材……。 「なんでこんなに捨てるん？」というくらいの量。

まずは何が埋まっているかわからないので手刈りから始

め、塩ビ管はその場で電動カッターで切って、軽トラに積んで処分場へ。産廃の費用もかかるし、暑いし、体力的にも相当きつかったです。

でも、近所の方がスイカを差し入れてくれたり、「ようやってくれよるね」と声をかけてくださったり、それがすごく励みになりました。

### ●ハートの菜の花畑、そして「和スタード」へ

農地を整えた後は、キガラシナを手押し播種機で撒きました。せっかくだから景観にもなるよう、ハート型にしました（これがまた可愛いんです）。

菜の花が咲いた後、近所の方に「高見台作ってくれんね」とつぶやいたら、本当に作ってくださった（笑）。こうやって巻き込まれていくのが山川の良さです。

その後、採れた種で「国産マスタードを作ろう！」という話になり、試作を何度も重ねて、ついに「和スタード」が完成しました。

途中で「なにこの苦さ？」となったり、麦刈りと重なって種が飛び散ったり、もう大騒ぎでしたけど、仲間と笑いながら作れたのが本当によかったです。

## 5 竹林問題から企業誘致へ ～思いが“つながる”瞬間～

みやま市には竹林が農地に迫っている場所がたくさんあって、これも大きな悩みでした。切っても切っても追いつかない。業者さんに頼めばすごい金額になる。そんな中で、宮崎県都城市の竹活用の取り組みを見学に行き、竹の粉砕物を肥料や飼料にする会社の社長さんと出会いました。

話を聞けば聞くほど、「これはすごい！」と興奮してしまい、「みやま市に第2拠点を作りませんか？」

と、思い切ってお願ひしました。

すると「鹿児島・宮崎に次ぐ場所として考えている」と社長さんからお話があり、市役所も動いてくれて、誘致が本格的に進みました。

肥料としても作物の収量が上がり、牛の飼料としても評価が高い。「みやま発の付加価値作物」ができるかもしれない——地域全体に希望が広がっていくのを感じました。

## 6 基盤整備を進めながら感じた葛藤と学び

基盤整備は計画通りにはいきません。地盤が弱かったり、斜面が急だったり、予定していたテラスが作れなかったり。

中間管理機構さんとの折衝では、意見がぶつかる場面もありました。

でも、私たちの思いはひとつです。「将来の担い手に、きちんとした農地を残したい」

道路幅の検証も、入植予定者の方たちが実際にトラックで走って、「これなら大丈夫」と言ってくれたから前に進めました。

2024年11月20日には、いよいよ起工式。大きな機械が山に入っていく様子を見ながら、「ついにここまで来たか」と胸が熱くなりました。

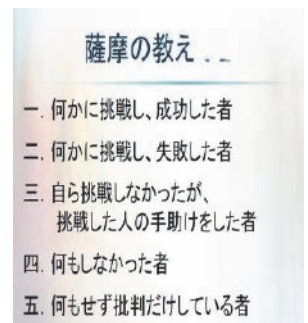
## 7 私を支える言葉～“今こそ私たちが動く”～

私が背中を押され続けている言葉があります。「いつか誰か、ではなく、今こそ私たちが行動しなければ、誰もやらない。何も変わらない。」

この言葉を、農業委員会のユニフォームにもプリントしました。後ろ姿でメッセージを伝えていくような感じですね。

行動すると、自然と仲間が増えていきます。前向きな人は前向きな人を呼ぶんです。

薩摩の教えに「挑戦した人を助ける人になりなさい」という言葉があります。私はせめて“3の人間”でありたいと思っています。批判だけして何もしない“5の人間”には、なりたくありません。



## 8 おわりに ～押しつ押しされつ、ここまで来ました～

私は、家族、山川組の仲間、友人、多くの方に支えられてここまで来ました。よく「やる気スイッチを押している人」と言われますが、実は逆で、周りの皆さんに私のスイッチを押されまくって、ここまで動き続けているだけです（笑）。

今日より明日、半歩でも前へ。その積み重ねが、地域を確実に変えていくと信じています。

本日はご清聴、誠にありがとうございました。

# パネルディスカッション

## 「誰もが活躍できる地域農業を目指して」 ～水土里ネットの挑戦～

◆コーディネーター

◆アドバイザー

◆パネラー

全国土地改良事業団体連合会 土地改良研究所長

みやま市農業委員会 会長 山川地区土地改良区 理事

長崎県土地改良事業団体連合会 理事

熊本県土地改良事業団体連合会 理事

宇城市土地改良区

熊本県農地整備課 課長

親泊 安次

徳永 順子

松本 彩子

酒瀬川美鈴

田尻 千恵

大森 直樹

**親泊氏** 皆様、こんにちは。これからのお時間は、先ほど基調講演をいただきました徳永様にアドバイザーとしてご参加いただき、4名のパネリストの皆様と一緒に、「誰もが活躍できる地域農業を目指して～水土里ネットの挑戦～」をテーマにパネルディス



親泊所長

カッションを行いたいと思います。私はコーディネーターを務めます全国水土里ネットの親泊と申します。よろしくお願いたします。本日は3つのセッションに分けて進めます。第1セッションは私たちを取り巻く課題の共有、第2セッションは解決策としての男女共同参画の活かし方、第3セッションは地域インフラを支える水土里ネットが果たすべき役割です。封筒の中にセッションごとのメモ用紙が入っておりますので、ぜひご活用ください。それではまず、パネリストの皆様とアドバイザーの徳永様に、座ったままで結構ですので、お一人1分程度で日頃の活動内容と本日の抱負を兼ねた自己紹介をお願いいたします。順番は松本様、酒瀬川様、田尻様、大森様、そして徳永様をお願いいたします。

### 《自己紹介》

**松本氏** 皆様こんにちは。長崎県島原市から参りました松本彩子です。私は島原で農業を営む生産者です。私たちの島原は基盤整備が進んだおかげで農地が広がり、後継者も増えて活気のある農業地帯になっています。本日はどうぞよろしくお願いいたします。



松本理事

**酒瀬川氏** 皆さんこんにちは。私は今年度から熊本県土地改良事業団体連合会の理事に就任いたしました酒瀬川です。3年前に県を退職し、現在は熊本県農業会議で農業者の親子間継承や第三者への経営継承の支援をしています。私は、熊本地震で農家が70軒から50軒に減って超高齢化が進んだ甘藷生産の多い農村に住み、その暮らしにどっぷり浸かって生活しています。よろしくお願いたします。



酒瀬川理事

**田尻氏** 皆さんこんにちは。宇城市土地改良区事務職員の田尻です。私たちの土地改良区は9月に5つの小さな土地改良区が合併してようやく誕生したばかりの新しい組織です。合併前は200ヘクタール程度の小さな土地改良区で、私一人で事務を担当していました。以前は男女共同参画という言葉もぼんやりとしたイメージしかありませんでしたが、くまもと水土里ネット女性の会の研修などに参加するうちに少しずつ理解が深まりました。「女は度胸と愛嬌」というモットーののっとり、今日は度胸だけでここに立っています。よろしくお願いいたします。



田尻氏

**大森氏** 熊本県農地整備課の大森です。現在は農林水産省から県に出向しています。専門は農業土木で、長く土地



大森課長

改良関係に携わってきました。新潟県への3年間の出向や、令和元年からの内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局での地方創生業務では、特に女性が都市へ流出しやすく、戻りにくいという実態を目の当たりにしてきました。そうした経験も踏まえて本日はお話しできればと思います。よろしくお願ひいたします。

**徳永氏** 先ほど基調講演で熱くなりすぎた話を聞いてくださり、ありがとうございます。プロフィールは既にお配りしていますので自己紹介は省略しようかと思いましたが、土地改良に関しては本当に新人の新人です。今日は皆様から勉強させていただくつもりで参加しています。よろしくお願ひいたします。



徳永氏

## 《第1セッション》

### ～多様な人材が活躍できる地域整備・環境整備に必要なことは～

**親泊氏** 皆様ありがとうございます。それではさっそく、第1セッションに入ります。テーマは「多様な人材が活躍できる地域整備・環境整備に必要なことは」です。現場や職場でどのような課題があり、それを解決するためにどんな取り組みを進めているかお話しいただきたいと思います。まず、土地改良区でご活躍の田尻様からお願いいたします。

**田尻氏** 私たちの地域は地域の繋がりが非常に強く、良い話はなかなか広がらないのに悪い話は枝葉をつけて秒速で回ってしまうようなところ。根強い固定的性別役割分担意識が男女ともに残っています。職場でも20数年前は「事務員は奥さん業の延長で、お茶汲みと雑用だけしていればいい」という空気があって、担当業務なのに男性職員と交代を命じられたり、残念な思いをした職員もいたと聞きます。私は現場が大好きでじっとしてられません。役員さんや農家さんと一緒に草刈りをしたり、排水機場のオペレーターが不在のときは自分で運転したり、台風や大雨のときは基本操作を担当します。熊本地震のときも役員さんと落ち着いてすぐ施設の見回りをし、市役所と事業の住み分けを行い、関係機関の支援を得てなんとか対応できました。現場で一緒に作業することで農家さんからいろんな話を聞けますし、教えてもらうことも多いです。それと私は飲みに行くのが好きなので「飲みにケーション」で少しずつ職場の雰囲気も変わってきたと感じています。

**親泊氏** ありがとうございます。次は地元で農業に深く携わっておられる酒瀬川様、お願いいたします。

**酒瀬川氏** 私は現在、熊本県農業会議で親子間継承や第三者継承の支援をしています。相談を受けると、相続を含めた聞き取りと農地の現場確認を行い、匿名でホームページに公開して受け手とのマッチングをしています。最近特に、

中山間地域では先祖代々の農地の売買相談が増えています。これまで宝だった農地が負の財産になりつつあります。耕作放棄地にならずに済んでいるのは、圃場整備された農地を生産組織がカバーしているケースがほとんどです。現場に行くと「20年前に圃場整備しておけば生産組織でどうかできたのに」という声をよく聞きます。熊本県では、毎年400人近い新規就農者がおり、その4分の1は全くの異業種からの参入です。最初の壁は農地確保、次が水の確保です。良い条件の農地を最初から借りられる人はほとんどいません。高齢化と従事者減少が進む中、新規参入者も含めた多様な担い手が安定的に生産を続けるには土地改良が不可欠だと実感しています。ソフト面では、古い慣習が新規参入者を遠ざけることもあります。女性も含めた多様な担い手が生き生き農業できる環境は、集落住民全員で心がけることが大事です。私が住む農村は典型的な男社会で、このイメージを変えなければ多様な人材の活躍は難しいと思っています。

**親泊氏** ありがとうございます。次は農業経営にも携わっておられる松本様、お願いいたします。

**松本氏** 今、私たちの地域では外国人労働者が増え、差別なくイキイキ働いています。一昔前は男性中心で、女性の活躍もなく「働いて当たり前」の時代でしたが、それでは地域は活性化しません。外国人、YouTubeで農業を発信する人、農業大好き人間、女性など多様な生き方が重なり合い、それぞれの特技を生かして農業の良さを伝え、土に触れる生活を大切にしたい施設環境整備に取り組むべきです。一番大事なことは人権を尊重すること。それによって地域が活性化すると信じています。

**親泊氏** ありがとうございます。次はパネリスト唯一の男性で行政の立場から大森様、お願いいたします。

**大森氏** 多様な人材、特に女性や若手が活躍できる環境整備には、まず周囲の意識を変えて誰でも安心して参加できる地域にすることが基本です。その上で、ハードとソフトに分けて4点お話しします。

ソフト面の1つ目は、会議の柔軟化です。地域の会合は夜6時から公民館というのが多く、家庭の仕事が忙しい時間帯なので参加しづらい。時間をずらす、オンライン併用など参加しやすい形にするべきです。

2つ目は、地域でルールを作ること。頭では理解していても濃度が違うことがあるので、ハラスメント防止や育児・介護との両立など、みんなで話し合っただけでルールを決めることが重要です。ハード面では、まずトイレや更衣室など現場の設備整備、力仕事前提の役割分担も見直す必要があります。最後にDX・デジタル技術の活用です。遠隔監視やドローンで力仕事が減り、力がなくても技術でカバーできる環境を整えるべきです。

**親泊氏** ありがとうございます。4名のパネリストから貴重なお話をいただきました。徳永様、アドバイスをいただけますか。

**徳永氏** 今日は農業委員として参加している方が多く、休憩時間や洗面所でも「私も夏に土地改良の理事になりました」という方と何人もお会いしました。農業を本当の職業・生業として続けていくためにどうするか、という考え方は農業委員会も土地改良も同じです。ただ、市町村レベルでは土地改良の大切さがなかなか伝わっておらず、「土地改良の役員会はお父さんたちが行くもの」という意識が私たち自身にもあります。まずは土地改良の扉を開くきっかけを作らないと、女性理事を増やすのは難しい。農業委員会と土地改良区がタッグを組めば最強になれるのではないかと思います。

**親泊氏** ありがとうございます。私なりにキーワードで整理させていただきます。田尻様からは、男女双方に残る固定的性別役割意識と、現場で役員と一緒に作業をしたり、飲みケーションで職場の雰囲気を変えてきたお話。酒瀬川様からは、担い手確保の深刻な状況、新規就農者の農地・水の確保の壁、圃場整備の必要性、古い慣習と男社会イメージの克服。松本様からは、外国人含めた多様な人々が活躍し、人権尊重が地域活性化につながるというお話。大森様からは、会議の柔軟化、地域ルール整備、トイレ・更衣室などのハード整備、DXによる負担軽減。徳永様からは、農業委員会と土地改良区の共通認識、土地改良の扉を開くきっかけ作りと両者のタッグの必要性でした。

## ＜第2セッション＞

### ～地域農業の担い手確保に向けた男女共同参画の可能性～

それでは第2セッションに移らせていただきます。論点は「地域農業の担い手確保に向けた男女共同参画の可能性」です。担い手不足が深刻化する中で、男女共同参画はどのように新たな可能性を生み出すのか、特に女性の力が地域の未来をどう形作るのか、皆様のお考えをお聞かせください。では松本様から、どうぞよろしくお願ひします。

**松本氏** 今まで農業は男性の力が大きかったと思います。でも女性は何をしていたか。陰ながら支えていたんです。男性だから女性だからと区別せず、お互いがお互いを尊敬し合う関係にしていきたい。女性の視点から新しいアイデアが生まれ、地域が活性化していくのを、周りを見ても実感しています。農業という一つの仕事をみんなで協力し、仲良く楽しくやっていけば疲れも取れ、生き生きして、儲かる農業につながっていく。女性が頑張っているところは本当に伸びています。年齢問わず、子どもからお年寄りまでが地域農業の担い手になる、こんな素晴らしい職業はないと私は思っています。以上です。

**親泊氏** ありがとうございます。続きまして酒瀬川様、お願いいたします。

**酒瀬川氏** 最近、親子間継承の相談で出会った30代の姉妹の話します。露地野菜を26ヘクタール、4市町村にまたがって栽培しています。親の代は5ヘクタールだったの

に、自分たちの代で20ヘクタール以上増やしました。トラクターは4台あって、彼女たちの主な農作業は機械による耕耘と防除です。「機械化が進んだら女性だけでもやる気と根性があればできます」と断言していました。ドローン防除も露地野菜に向いているので今後導入予定です。最初は集落の人たちから「女のくせにどこまでできるか」と冷ややかな目で見られていたそうですが、毎日トラクターに乗る姿を見て「よく頑張りよるな」と評価が変わったそうです。一般的に女性は体力面で農業は厳しいと思われるがちですが、スマート農業による省力化で働き方は変わってきています。熊本県ではドローン200台以上、直進アシスト付き田植機300台超と導入が進んでいます。スマホ対応機器は特に女性の心強い味方です。ただ課題は導入コストの高さと、コストに見合う大区画化・集約化が進まないという点です。やはり農地の大区画化や集約が不可欠だと現場を見て感じます。以上です。

**親泊氏** 事例を交えてありがとうございました。次は大森様、お願いいたします。

**大森氏** 農水省のデータでは、基幹的農業者の約4割が女性です。見た目は男性中心でも実は女性がかかり関わっています。さらに女性が経営に関わっている農家は6次産業化が進み、販売額の伸びが高い。これは消費者の視点を持っており、売れるものを作っているからです。これをさらに持続的に進めるには3つの方法があると思います。1つ目は、スマート農業の活用で、今まで力仕事だったものが力がなくてもできるようになり、新規就農者の障壁も下がります。2つ目は、農業は就業時間が柔軟に決められる強みがあるので、1人で8時間やるのを2人で4時間ずつにする、朝型と夜型で交代するなど、仕事のシェアを進める。また、育児・介護を抱える人も時間や内容を組み合わせてバランスを取れるようにする。3つ目は、新しい技術を学ぶ機会や資格取得支援を行政が後押しすることです。ドローンの免許取得支援など、皆さんの強み弱みを組み合わせながら農業ができる環境を作っていくことが大事だと思います。以上です。

**親泊氏** ありがとうございます。続きまして田尻様、お願いいたします。

**田尻氏** 基盤整備を進める中で、若い農家さん3人が事務所に来て「おばちゃん、、、今、基盤整備の話が上がって、10年後には僕たち残り少ない農家を中心になって農地を守ることになるけど、僕たちの話は聞いてもらえないんでしょ？」と1時間半、熱く語って帰りました。農村の古い体質で若い人の意見を聞く場所すらない。これではやる気のある担い手が育たないと思い、私には権限はありませんがすぐ市に相談し、地元の推進委員長にも話してその若い人たちを推進委員に入れてもらいました。それ以降は委員として一緒に事業を考えられるようになりました。いろんな世代と一緒に問題解決して、より良い基盤整備にし、愛

着を持って営農してほしいです。女性ならではのコミュニケーション力や情報収集力で人と人を繋ぎ、問題解決に導けばいいと思います。男も女も性格や環境の違いを理解し、お互いを尊重し、多様性を認め合うことが大事。そのためには、意見交換の場や研修・啓発活動を継続していく必要があると思っています。

**親泊氏** ありがとうございます。4名のパネリストから貴重なお話をいただきました。徳永様、アドバイスをお願いできますか。

**徳永氏** 4割が女性農業者が関わっている現実があります。でも、意思決定の場である委員会等にどれだけ入っているかと言うと、かなり少ない。男性社会の中に女性が入っていくハードルはまだ高い。そのハードルを下げる、扉を開けて「どうぞこちらへ」と誘う努力が、入っている側の私たちにも必要です。仕組み作りも含めて、そういう働きかけをしていかなければと思います。

**親泊氏** ありがとうございます。私なりに簡単に整理させていただきます。松本様からは、男性女性関係なくお互いを尊敬し合い、子どもから高齢者まで協力して楽しく農業をやることで儲かる農業につながるというお話。酒瀬川様からは、30代姉妹の成功事例と機械化・スマート農業の効果、ただしコスト回収のためには大区画化・集約化が必要というご指摘。大森様からは、女性農業者の4割という現実、6次化・販売額向上、スマート農業活用、就業時間のシェア、新しい技術の学びの機会支援という3点。田尻様からは、若い農家の声を拾うために推進委員に入ってもらった経験と、女性のコミュニケーション力で人と人を繋ぎ、多様性を認め合うことの大切さ、継続的な研修の必要性。徳永様からは、意思決定の場に女性が少ない現実と、扉を開けて誘う努力、仕組み作りの必要性でした。

### 〈第3セッション〉

#### ～誰もが活躍できる地域農業に向けて水土里ネットができることとは～

**親泊氏** では第3セッションに移らせていただきます。最後のセッションの論点は「誰もが活躍できる地域農業に向けて水土里ネットができることとは」です。地域農業の基盤を支える水土里ネットが、中間支援組織としてどのような役割を果たすべきか、多様な人々が活躍できる地域農業を実現するために、具体的な提言や提案をお願いしたいと思います。では、酒瀬川様からよろしく願います。

**酒瀬川氏** 平成11年に男女共同参画社会基本法が制定されたとき、私は普及指導員として農業女性の社会参画に取り組んでいました。そのとき感じたのは、どんなに夫と一緒に農業を頑張っても、遺言や養子縁組は別として、農地の相続権は基本的に女性にはないということです。そこで、退職金という考え方で小規模企業共済制度などを推進したこともあります。熊本県の基幹的農業従事者は女性が4割を占める中、土地改良区の女性理事は約4.7パーセントと、

JAの女性理事や女性農業委員に比べてかなり低い状況です。JAの女性組合員は約18パーセントで、農地所有に関係なく農業従事者であれば夫婦で加入できます。一方、認定農業者は熊本県で1500人ほど、そのうち、単独で申請している女性が200人を超えています。このように女性経営者が増えている中、土地改良法における組合員資格は原則農地の耕作者ですが、実際は農地所有者である男性がほとんどではないでしょうか。これは、農村社会で農地と世帯主が強く結びついているため、農地を相続できない嫁の立場にある女性農業者にとって非常に不利に働く課題であると思います。土地改良区が真の男女共同参画を進めるなら、まずは議決権を持つ員内女性組合員を増やし、そこから女性理事を誕生させる取り組みが必要です。そのためには、農地所有の結びつきだけにこだわらず、例えば1戸から2人、農地所有者の夫と使用貸借権を設定した妻も組合員にできるなど、柔軟な制度に見直すことで女性の社会参画が進むと思います。

私自身、先日長崎県で開催された九州・沖縄水土里ネット女性理事意見交換会に参加して理事に必要な知識を学び、未熟さを痛感しました。そこで、土地改良法の組合員資格についても勉強し、事務局の女性や県庁担当課に教えていただきました。そういう中で今日の発言につながる疑問が生まれました。水土里ネットには女性が学べる場を多く設定してほしいですし、女性が疑問に思ったことを行動に移せるように後押ししてほしいです。次に、農村には農業や生き物を学べる場所がたくさんあります。現在、土地改良区で田んぼの学校などに取り組みされていますが、今後も子どもや消費者に農業農村の多面的機能を体感してもらう取り組みをさらに推進してほしいです。最後に、私の集落では年に2、3回の区役共同作業があります。私も草刈り機を持って参加しますが、急な法面は若手男性、落ちた草をゆっくり集めるのは高齢女性と、体力に応じた役割が自然にできています。このように、1人1人を認め合う共同作業が誰もが参加できる農村社会につながっていくと思います。以上です。

**親泊氏** ありがとうございます。制度的なご提案も含めて貴重なご意見でした。次は大森様、お願いいたします。

**大森氏** 水土里ネットができることですが、現状でも連合会や県を含めて皆さん十分頑張っているんじゃないと思います。その上でお話しすると、女性理事10パーセント目標を掲げて数を増やそうとされていますが、やはり地域のマインドを変えていくことが必要です。ただ、現場だけで変えようとする骨が折れ時間もかかります。私も地方出身なのでその感覚はよくわかります。そういうとき、今回お話しするのは水土里ネットというより、どちらかというと県土連の方になるかもしれませんが、県土連が現場に強くルール作りを要請する形で「県土連が言っているから」と少しフラストレーションをそちらに向けてもらいながら進めてもらうという、少し極端ですがそういうやり方もある

と思います。また、候補者を見つける場を水土里ネットが作ったり、地域の団体、他の団体と合同ワークショップを開くのも有効です。もう1つ、今日感じたのは女性のネットワークの力の強さです。全国・県・地域レベルで女性の会を作り、情報や悩みを共有できる場にすると、1人で役員は大変でも2人なら引き受けてもいいという方も出てくると思います。最後に、成果や他地域の取り組みを見える化する。同じ悩みを持つ人が多いのでヒントになる情報を県土連や県が共通化・見える化して共有するのも大事な役割だと思います。以上です。

**親泊氏** ありがとうございます。次は田尻様、お願いいたします。

**田尻氏** 宇城市土地改良区では大規模な国営基盤整備も行われています。私がいた合併前の三角町土地改良区でも次々と県営事業が採択され実施されました。整備前は人的作業に頼らざるを得ず、営農にゆとりがなかった地区が、事業で機械化され労働時間が大幅に改善されると、女性は家事にも余裕が生まれ趣味の時間も持てるようになり大変喜ばれています。水管理もボタン1つで済むようになり、今まで主に男性がしていた作業を女性や高齢者もできるようになりました。基盤整備のおかげで誰もが参加できる農業に変わったのです。農家の大切な農地と施設を守る土地改良区の仕事はすぐに成果が出るものではありません。多様化する農家のニーズを女性視点とコミュニケーション力で汲み取り、各機関とネットワークを活用して今できることをやるかやらないかで、30年40年後の子や孫の世代の地域営農に大きな差が生まれます。そういう大切な役割を水土里ネットは持っていると思います。

**親泊氏** ありがとうございます。次は松本様、お願いいたします。

**松本氏** 水土里ネットは今でも十分やってくれていますが、まだできることがあるかなと思います。私はこの漢字、水、土、里のネットワークって素晴らしいなと初めてこの事業を知った時に思いました。基盤整備事業の終わった畑を見てもわかりますように、地権者の私利私欲ありますが、ギリギリまで農地を作って、あの畑の団地です。農業者には仕事がしやすい環境ですが、もう少し余裕を持たせてリフレッシュできる場、見せる圃場、景観の良い農村にしてもいいのではないかと思います。畑仕事をしていると木陰も必要だと感じます。そうすれば農家もそうでない人も農地や観光を楽しめる交流の場、見せる環境農地ができる。今は癒されたい人が多いので素敵な農村ができればそこに住みたい、農業したいという人も出てくるかもしれません。素敵な農村づくりの支援も期待します。

**親泊氏** ありがとうございます。徳永様、いかがでしょうか。

**徳永氏** 酒瀬川さんの女性組合員を増やしてから理事を増やすという具体的な方法、大森さんの見える化はすごく大事だと思いました。酒瀬川さんが田んぼの学校を紹介され

ました。みやま市でも、JA 青年部が田植え・稲刈り体験をしています。もう一歩踏み込んで水土里ネットも絡んだ、土地改良の大切さを盛り込んだ体験プログラムを大人バージョンでもできたら面白いと思いました。これからの土地改良事業は利便性・安全性を考えつつ、観光で一般の人が癒される場所、緑を見て帰っていただける場所にしていく視点も必要です。法律的には難しいかもしれませんが、癒しの場や見せる農地と一緒に考えられるよう、水土里ネットと提案していけたらいいなと感じました。

**親泊氏** ありがとうございます。ここで第3セッションを私なりに整理させていただきます。酒瀬川様からは、農地相続の実態から耕作者主義を徹底し、女性組合員を増やして理事を誕生させること、女性の学びの場設定、子ども・消費者の多面的機能理解促進、体力に応じた役割で誰もが参加できる農村社会づくり。大森様からは、県土連がルール作りを強く要請する手法、候補者発掘の場作り、女性ネットワークの地域レベルでの構築、成果の見える化。田尻様からは、基盤整備と管理システムで誰もが参加できる農業に変わった事例と、今できることをやるかやらないかで将来に差が出るという水土里ネットの役割。松本様からは、見せる環境農地・景観づくりによる癒しと交流の場づくり支援。徳永様からは、体験プログラムの充実と観光・癒しの視点を取り込んだ土地改良事業の提案でした。

## 《総括》

**親泊氏** 3セッションを通じた総括をさせていただきます。第1セッションでは、地域の意識・心がけ・尊重など目に見えない部分の変化と、女性や多様な人が入りやすい仕組み作りが共通のキーワードでした。第2セッションでは、性別年齢問わず協力し合うこと、スマート農業と基盤整備のセットでの大区画化、就業時間シェアや学びの機会支援、若い世代の声を拾う場の設定、男性社会のイメージ打破が可能性を広げるというご意見でした。第3セッションは今まとめました通り、女性組合員増加と制度柔軟化、学びの場、見える化、ネットワーク、景観・癒しを取り込んだ基盤整備などでした。本日のパネルディスカッションは「誰もが活躍できる地域農業を目指して～水土里ネットの挑戦～」をテーマに、現状課題、具体事例、今後の提案をいただきました。土地改良分野での男女共同参画が進むことで世代や立場を超えた繋がりが強まり、持続可能で誇りある農業農村を次世代に引き継げるはず。本日得られた気づきをそれぞれの場所へ持ち帰り、周囲の理解を得ながらできることから実践していただきたい。小さくても継続的な行動と熱い思いが多様な人材の結びつきを生みます。冒頭の竹崎会長のご挨拶、徳永様の基調講演も含め、各地で話し合いや活動を始めていただき、ますますのご活躍をお祈り申し上げます。長時間にわたりありがとうございました。これもちましてパネルディスカッションを終了いたします。

# 大会決議

現在、農業農村は、農業従事者の減少・高齢化に加え、「令和の米騒動」に象徴される農産物の国内需給の不安定化、さらには、頻発化・激甚化する自然災害や国際情勢の不安定化、資材価格の高騰といった構造的課題に直面しています。その一方で、スマート農業やICT活用の進展や、地域資源を活用した新たな事業展開など、農村地域が持つ可能性や期待が大きく広がりを見せています。

このような激動の時代にあって、土地改良事業を担う私たちには、安全・安心で安定した食料供給を願う国民の期待に応えるために、多様な人材の活躍と柔軟で持続可能な組織体制の構築がこれまで以上に求められています。

特に、地域農業を支える中核である土地改良区において、男女共同参画をはじめ、あらゆる世代や立場の力を組織運営や事業展開に活かしていくことは、時代の要請であるとともに、地域の未来を切り拓く鍵となります。

私たち水土里ネットは、地域で培った経験と絆を確固たる礎とし、多様な人材が総力を結集して農業農村の諸課題に立ち向かい、次世代に豊かで誇りある農業農村を継承していくことを誓い、ここに本大会の名において次の事項を決議します。

## 記

- 一 土地改良区における女性理事の登用や職員としての活躍をさらに推進し、男女共同参画の一層の前進を図ること。
- 一 世代や立場を超えて多様な人材が結集し、地域のつながりを力として持続可能な農業・農村の実現に寄与すること。
- 一 地域資源を活かした豊かで誇りある農業農村を守り、着実に次世代へ継承し、共に学び支え合う地域社会を形成すること。

令和7年11月4日

つながる、広がる、農業農村の力。男女共同参画推進大会 in くまもと



くまもと水土里ネット女性の会 岡田副会長



会場内

# 記念撮影



其の1



其の2

# 大会交流会



開会挨拶：熊本県農村振興局 永田局長



乾杯挨拶：熊本県土地改良事業団体連合会 久保田常務理事



会場全景



交流風景



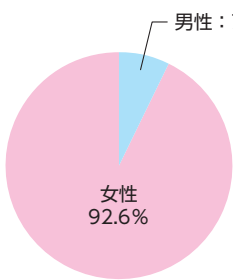
山鹿灯籠踊り（山鹿灯籠踊り保存会）



閉会挨拶：全国水土里ネット女性の会 栗野副会長

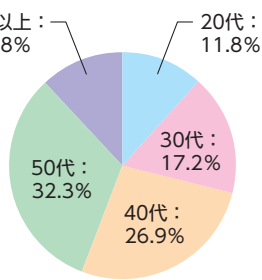
# 大会参加者アンケートまとめ

## 性別



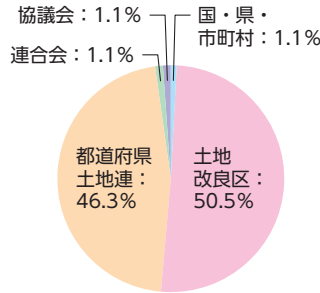
※94件の回答

## 年齢



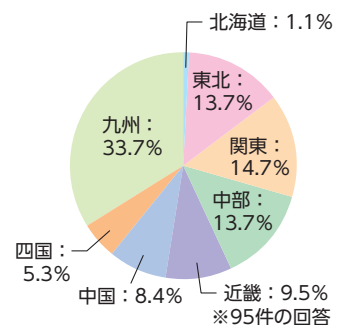
※93件の回答、10代は0件

## 所属



※95件の回答

## お住まいの地方

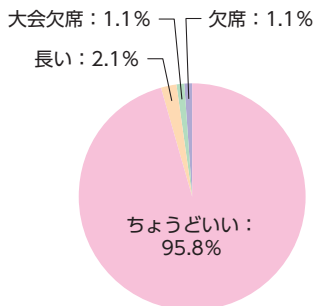


※95件の回答

## 大会式典について

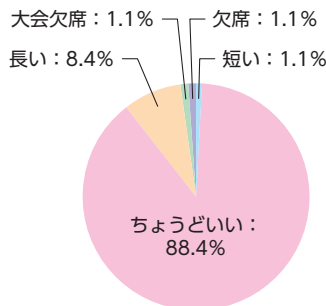
※95件の回答

### 基調講演の講演時間について



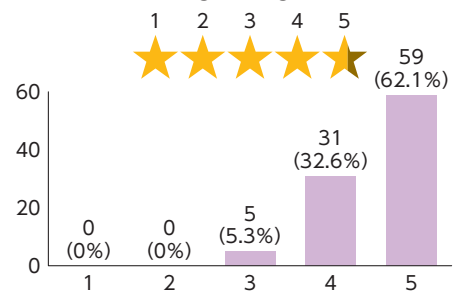
※短い0件

### パネルディスカッションの時間について



### 大会式典の内容

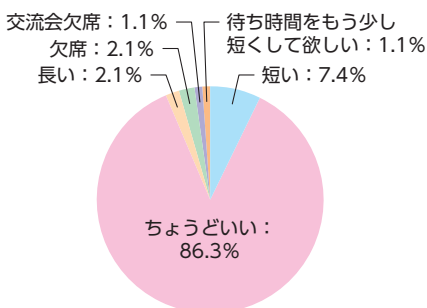
Average rating (4.57)



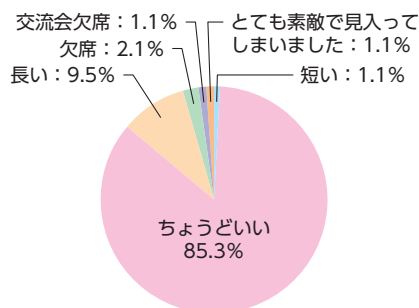
## 交流会について

※95件の回答

### 交流会全体の時間について

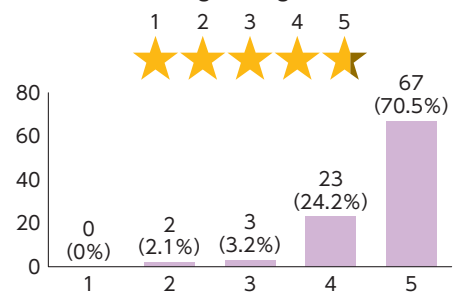


### 交流会の公演時間(山鹿灯籠踊り)について



### 交流会の内容

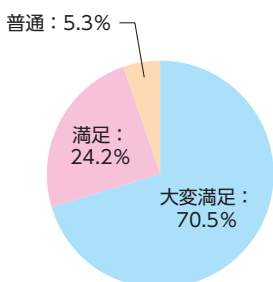
Average rating (4.63)



## 大会全般について

※95件の回答

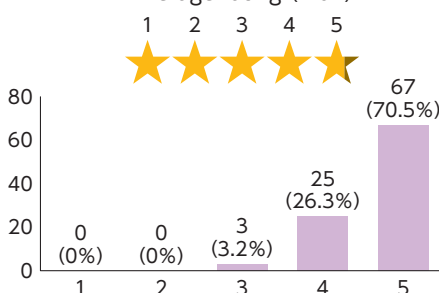
### スタッフの対応



※不満・大変不満は0件

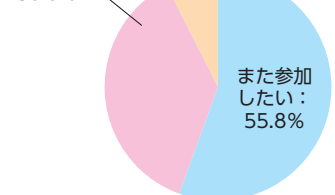
### 大会全体の内容

Average rating (4.67)



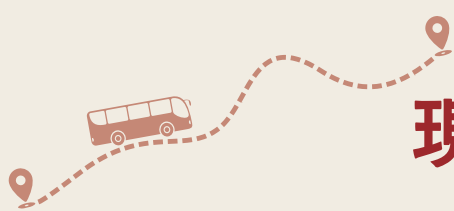
### 来年以降、同大会が開催されたら

開催場所など条件次第で参加したい: 36.8%



※参加しないは0件

大会参加者220名の内、95名(43.1%)の方からアンケート回答いただき、集計したデータです。



# 現地研修行程

令和7年11月5日

## 熊本市内コース



竹中事務局長の説明



熊本城での集合写真①



熊本城での集合写真②

市民会館シアーズホーム  
夢ホール前

秋津飯野地区

熊本城&城彩苑

徒歩&散策

城彩苑

ワン・ステーション  
ホテル熊本  
レストラン/クロスタイムクロスビー

JR熊本駅

熊本空港

## 阿蘇コース



熊本地震震災ミュージアムでの様子



草千里での集合写真①



草千里での集合写真②

市民会館シアーズホーム  
夢ホール前

熊本地震  
震災ミュージアムKIOKU

草千里  
山ノ駅物産館

大切畑ダム

阿蘇ミルク牧場  
レストラン/マザーズキッチン

熊本空港

JR熊本駅

# 大会を終えて

## つながり、広がり、農業農村の未来を切り拓く

「つながる、広がる、農業農村の力。男女共同参画推進大会 in くまもと」は、全国各地よりお集まりいただいた皆様のご協力により、盛会裡に幕を閉じることができました。

ご多用のなか、多くの皆様にご参加いただきましたこと、心より厚く御礼申し上げます。

また、本大会の開催にご尽力くださいました関係各位、そして日頃より農業農村整備事業の推進にご尽力いただいている皆様方に、改めて深く感謝と敬意を表します。

豊かな水と緑に恵まれ、「食のみやこ熊本県」の創造に取り組むこの熊本の地は、熊本地震や度重なる豪雨災害を乗り越えた復興の経験を持つ地域です。その歩みの中で得られた最大の学びは、地域の「つながり」と、困難な状況下で発揮された協働の力こそが、農業農村の未来を守る確かな鍵であるという、揺るぎない確信であります。

本大会は、高齢化、担い手不足、自然災害、さらには国際情勢の不安定化といった構造的課題に直面する今、水土里ネットを主体とした地域組織において男女共同参画の推進が不可欠であることを、改めて共有する貴重な場となりました。

男女共同参画が進むことで、多様な立場や世代を超えたつながりが強まり、それが持続可能で誇りある農業農村を次世代へ確かに引き継ぐ力となることを、参加者の皆様と共有できたものと存じます。

今回得られた気づきをそれぞれの地域に持ち帰り、周囲の理解を得ながら、できることから一歩ずつ実践していただければ幸いです。たとえ小さな取り組みであっても、継続的な行動と熱い思いが、多様な人材の結びつきを生み、大きな変化へとつながっていくものと確信しております。

私たちがこの思いを胸に、皆様と共に、土地改良を基盤とした農業農村がこれからも発展し続けるよう、より一層努力を重ねてまいります。

皆様のさらなるご活躍と、地域農業の持続的な発展を心より祈念申し上げ、記録誌に寄せる言葉といたします。

令和7年12月

全国水土里ネット女性の会 会長 西 彩

くまもと水土里ネット女性の会 会長 森下 ひとみ





主催／全国水土里ネット女性の会  
くまもと水土里ネット女性の会